

四旬節第五主日

2012.3.25

ヨハネ 12・20-31

四旬節も第五主日を迎えています。来週の日曜日は受難の主日、そして、過ぎ越しの聖なる三日間の典礼にともに与り、私たちは復活祭を迎えようとしています。

今日の福音には、「わたしは地上から上げられるとき、全ての人を自分のもとへ引き寄せよう。」という主のことばが響いています。このみことばは、先週のミサの中で聴いたみことばと響きあっています。「モーセが荒れ野で蛇を上げたように、人の子も上げられなければならない。それは、信じる者が皆、人の子によって永遠のいのちを得るためである。」先週のこのみことばとあわせて考えると、「わたしが地上から上げられるとき、全ての人を自分のもとに引き寄せよう。」という今日のみことばは、十字架に上げられた主の、十字架からの招きのことばと受け止めることができます。

出エジプトの荒れ野の旅の途中、荒れ野の過酷な現実にならなくなった人々は、自分たちを出エジプトの旅へと導きだした神に逆らって、エジプトでの奴隷のような日々のほうがまだ良かったと不平を洩らし始めたのでした。神の導きに信頼できない人々の罪に対して、毒蛇が送り込まれ、それに噛まれた多くの人々がいのちを落とすことになったのです。そのとき、神はモーセに命じて青銅の蛇を作らせ、旗竿の先にそれを掲げさせました。毒蛇に噛まれた人々が、旗竿の上に高く上げられた青銅の蛇を仰ぎ見ると、再びいのちを得ることが出来たということが旧約聖書の民数記には語られています。これは、約束の地を目指す荒れ野の旅で、旧約の神の民が経験した神の救いのみわざです。「モーセが荒れ野で蛇を上げたように、人の子も上げられなければならない。それは信じる者が皆、人の子によって永遠のいのちを得るためである。」という先週聴いた福音のみことばは、旧約の神の民が荒れ野の旅で経験した神の救いのみわざを思い起こさせようとしているのです。そしてそれに基づいて、ご自分の十字架の死の意味を、私たちに理解させようとしているのです。

モーセが旗竿の上に上げたのは青銅の蛇でした。それは、神に背いた人々を死に至らせた蛇のかたどりでした。ここにも、主の十字架の死を理解する上で、隠された重要な意味を見出すことができます。人々に死をもたらした恐ろしい蛇を見上げ、見つめることによって、人々はいのちを得たのです。死をもたらす毒蛇は何故送り込まれたのか。どこからその毒蛇は出てきたのか。旗竿の上に上げられた青銅の蛇を見上げた人々は、そのことをとくと見つめるように求められたのです。

十字架の上に上げられた私たちの主イエス・キリストは、私たちにその十字架のお姿をとくと見上げるように求めておられるのです。何故、御自分が十字架に上げられて、あのようなお姿をさらさなければならなかったのか、私たちに問いかけておられるのです。私たちの主イエスを十字架の上に上げたものは、何であったかを私たちに問うておられるのです。私たちに死をもたらすものの全て、私たちの罪の全てを見つめさせるために、イエスは十字架に上げられなければならなかったのです。それだけではありません。私たちの中に潜み、私たちに死に至らせる、私たちの内なる毒蛇がもたらす全ての害を終わらせるために、その全てを一身に背負われて、主は十字架に上げられたのです。そのようにして、私たち全ての者の、神への背きに対する神のゆるしを求めてくださったのです。

今日の福音には、直にイエスと出会うことを求めて、面会を申し出た何人かのギリシャ人が登場します。ユダヤ人ではないこの人々の求めに応じて、主は次のように言われます。「人の子が栄光を受ける時が来た。」このみことばにはどのような意味が込められているのでしょうか。「私は地上から上げられるとき、全ての人を自分のもとへ引き寄せよう。」と言われたことが、すでに始まっているのです。ギリシャ人であったこの人々は、十字架に上げられることによって全ての人をご自分のもとへと引き寄せる主イエスのもとへと、最初に引き寄せられた異邦の民の代表であったのです。私たちの主イエス・キリストは、ユダヤの人々のためだけではなく、異邦の民である私たち全ての者をご自分のもとへ引き寄せるために、旧約の民数記の物語を越えて、十字架に上げられたのです。

今日の福音の中心には、十字架の死を前にした、主イエスのみことばが響いています。「今、わたしの心は騒ぐ。何と言おうか。『父よ、わたしをこの時から救ってください』と言おうか。しかし、わたしはまさにこの時のために来たのだ。父よ、御名の栄光を現してください。」イエスのこの叫びに応じて、天からの父の御声が響きます。「わたしはすでに栄光を現した。再び栄光を現そう。」出エジプトの民を、荒れ野の旅を超えて約束の地に導いた主である神、イエスが父とお呼びした神は、その栄光をもって、私たちの世にその存在を示されるのです。神の栄光とは、この私たちの世界における神の現われを意味しているのです。天地万物を創造することによってこの被造物の世界に示された神の栄光は、全てのいのちの源である神に背いて、自ら死を招いた私たち人間を、大いなるあわれみをもって、再び御自分とのいのちの交わりに呼び戻そうとされる、神の救いのみわざとなって、再びこの世界に示されるのです。

「父よ、御名の栄光を現してください。」という今日の福音の主イエスの父なる神への叫びは、御自分の十字架の死によって、全ての者を救う神のあわれみ

の栄光が現れることを願う祈りなのです。私たち全ての者の背きの罪をゆるし、ご自分のいのちの交わりの中に救い上げる、大いなるあわれみによって示される神の栄光は、私たちの主イエス・キリストの十字架において示されたのです。イエスの十字架において、神はその栄光をもって御自分の存在を私たちに示しておられるのです。私たちが信じる神は、私たちの主イエス・キリストの十字架においてご自分の存在をこの世界に示された、大いなるあわれみの栄光のうちにおられる神なのです。私たちの主イエス・キリストは、その十字架において、全てのいのちの源である神の栄光と一体となられた、神の栄光の現れとしての、私たちの救い主なのです。

十字架に上げられた私たちの主イエス・キリストは、神の大いなるあわれみの栄光の現れのある十字架のもとに私たちを招いてくださいます。それは、この世に生きる私たちが自分の思いを越えて、この世に生きる自分のいのちのありようを憎むというほどの気概をもって、十字架において示された神の愛の栄光のうち生きるためです。私たちの主イエス・キリストは、十字架に上げられることによって、この地上から、神の栄光のいのちに上げられたのです。

私たちは、その主イエス・キリストに仕え、その主イエス・キリストに従って、永遠に私たちの主イエス・キリストとともに生きるために、主が私たちを招く十字架のもとに歩まなければなりません。一粒の麦となってこの地上に蒔かれ、主とともにある神の栄光のいのちのうちに豊かな実を結ぶよう、私たちの日々の十字架を生きなければなりません。そのために、十字架の上に神によって与えられる栄光のお姿を示しておられる、私たちの主イエス・キリストの十字架の死を越えて復活された、すべての困難に打ち勝つ神の栄光のうちに示される助けを今日もともに祈り求めたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高